



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2025

9月26日 号

208  
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

## 巻頭言

# 猛暑と水不足



副会長 遊 佐 雅 徳

2025年の夏は日本全国で記録的な猛暑となり国内の歴代最高記録も更新した。気象庁が発表した2025年の日本の最高気温は群馬県伊勢崎で記録された41.8℃で、伊勢崎のほかにも5地点で41.0℃以上を記録している。近年、日本列島を覆う猛暑はもはや「異常気象」ではなく「常態化した夏の風景」となりつつある。加えて各地で水不足が深刻化し、ダムの貯水率の低下や取水制限の発動といった報道が相次ぐ。こうした気候変動は、生活者の日常だけでなく、地域医療を支える医療機関にも直接的かつ深刻な影響を及ぼしている。

第一に、猛暑による患者数の増加がある。熱中症で救急搬送される患者は年々増加傾向にあり、とりわけ高齢者や基礎疾患を抱える人々が集中治療を要するケースが少なくない。病院は通常の診療業務に加えて、急増する熱中症患者への対応を迫られ、救急外来や病棟のベッドが逼迫する。さらに、慢性疾患患者の脱水や腎機能悪化など、暑さに間接的に影響を受ける症例が多くなることも懸念される。

第二に、水不足も深刻だ。医療は水に支えられている。手術や透析、検査機器の冷却、病棟での清潔保持まで、病院のあらゆる場面で大量の水が必要だ。水不足により感染対策の基本である「手洗い」や「清掃」が滞れば、院内感染のリスクさえ高まりかねない。水不足はエネルギーにも影響が大きい。東北電力管内では水力発電所の発電量は全発電量のおよそ3割を占めている。水不足により電力供給が危機的状況になる可能性もある。医療機関は大量の電力を必要としている。患者のために24時間快適な温度管理がかかせないし、電子カルテやエアコンや診療機材は大量の電気を消費しており、水とエネルギーの安定供給なしには医療機関の診療はなりたたない。

また、猛暑と水不足は職員の生活環境にも影響を与える。日没後も気温が下がらず熱帯夜になることも珍しくなくなった。メディアなどでは快適な睡眠のためエアコンをつけて就寝することが推奨されているが、このような声は少し前まではあまり聞かなかったように思う。高温下で睡眠の質が低下すると集中力の低下が心配される、逆にエアコンの使用により体調不良を引き起こす場合もある。看護師や技師が倒れば人員不足に拍車がかかり交代勤務の負担が増し、心身の疲労が蓄積する。人員が逼迫すれば、患者対応の質にも影響しかねない。今年の猛暑はいつもの夏よりも体調管理の難易度が上がったように感じる。

2025年の猛暑は「暑さを耐える」だけでなく「暑さに備える」重要性を私たちに突きつけている。

そして迎える猛暑のおわりは、単なる安堵の瞬間ではなく、次の夏に向けた準備の始まりでもある。住まいや職場での、節水や省エネの習慣化、体調を整える生活習慣の見直し。暑さが和らいだ今こそ、冷静に振り返り、学びを積み重ねる好機といえるかもしれない。

## 福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 加藤 貴弘

皆さま、こんにちは。気がつけば、2025年も残すところわずか3か月となりました。月日の流れの速さに改めて驚かされる今日この頃です。さて、唐突ではありますが、今回はこの9月より新たに着任した岩永 崇助教からの自己紹介をお届けしたいと思います。

それでは、岩永先生、よろしくお願いいたします。

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 岩永 崇

このたび、福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科に助教として着任いたしました岩永<sup>いわなが</sup> 崇<sup>たかし</sup>と申します。佐賀県出身で、これまで約二十年間、大学病院を中心に診療放射線技師として勤務してまいりました。前任地は鹿児島大学病院で、主に画像診断、とくにMRIの分野に携わり、臨床現場で多くの経験を積んでまいりました。日々の業務を通して患者さんに質の高い検査・診断を提供するとともに、後輩技師や実習生の指導にあたる機会も多く、技術や知識だけでなく、患者さんとの接し方や臨床判断力をいかに育むかという点にも力を注いできました。こうした経験を教育の場に活かし、学生の皆さんに将来の診療放射線技師として必要な視点を伝えたいと考えております。

研究面では、MRIによる定量解析を主なテーマに据えてきました。大学院では非造影脳灌流画像の定量評価に関する研究で学位を取得し、その後は肝臓における緩和時間の定量解析やグリコーゲンイメージングといった新たなテーマにも取り組んできました。教育・研究・臨床をバランスよく推進することで、学生に診療放射線技師としての魅力を実感してもらい、地域医療の発展に貢献できる人材の育成に努めてまいります。また、県内医療機関と良好な関係を築き、協力体制を強化する努力も惜しまないつもりです。地域の学会活動や研究会の運営に積極的に関与することで、社会貢献にも努めたいと考えています。

少し個人的な話もさせていただきます。趣味はモータースポーツ観戦で、特にF1が好きで、一人で鈴鹿観戦に出かけるほど熱を入れています。車そのものも好きで、今回の福島への引っ越しも、今後の楽しいドライブのために実用性のない二人乗りの軽オープンカーをフェリーに積んで赴任してきました。東日本で暮らすのは今回が初めてで、知り合いもほとんどいない状態です。土地のことも大学のことも、右も左もわからないことが多いと思いますが、どうかお気軽に声をかけていただくと大変うれしく思います。また、自然豊かな福島の地で、休日にはいろいろな場所へドライブに出かけ、新しい景色や出会いを楽しみにしています。新しい環境での生活に期待と不安が入り混じっていますが、こ

こでの出会いや経験を糧に、自分自身も成長できればと願っています。

まだまだ未熟ではありますが、皆さまとともに学び、力を尽くしていきたいと思います。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



写真：福島駅前キャンパス玄関前にて撮影

岩永先生、ありがとうございました。

新しい仲間を迎え、診療放射線科学科はさらなる発展を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## ～ 県会長 「オンレコ」 ～

会長 鈴木 雅博

① 7月19日に2025（R7）年度都道府県（診療）放射線技師会 地域委員会（全国地域連絡協議会）ならびに新任会長会議に参加しました。

- ・ 特措法が一部改正され、新たな感染症拡大時には、告示研修（令和3年厚生労働省告示第273号）を修了した診療放射線技師が、国や自治体の要請に応じてワクチン接種を行うことが可能となります。今後、福島県内での「実技講習会」開催を検討していきます。
- ・ 2025年度都道府県技師会長及び若手会員との懇談会企画にて本県も対象となっています。
- ・ 診療放射線技師の倫理啓発・コンプライアンス意識向上について、セミナー・広報活動等を通じた啓発を検討していくとのことです。

② 8月3日に太田西ノ内病院にて「フレッシューズセミナー」を開催しました。県内に就職した福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科卒業一期生を含め27名が参加し開催することができました。講師を務めて頂いた先生方、ご協力ありがとうございました。

③ 8月23日に、福島県立医科大学保健科学部福島駅前キャンパスにて福島県開催としては最後となる告示研修が行われました。（24日は最少催行人員に満たず中止となりました。）2021年度から4年間ファシリテーターとして協力いただいた先生方、本当にお疲れさまでした。

④ 「献血の日特集」・「がん征圧月間特集」の新聞特集に対して協賛しました。

⑤ 福島県原子力災害医療対策協議会の委員に菅野副会長を推薦しました。

⑥ JARTのアンケート調査について、ご協力いただいた皆様ありがとうございます。このようなアンケートは診療放射線技師のプレゼンスを高め、処遇改善、業務獲得・拡大に向けた調査活動となりますので、何卒ご理解頂き、お力添え頂けますようお願いいたします。（他の職能団体と比べ会員数が少ない為、より多くの方に回答を頂かないと意見の影響力が相対的に弱くなってしまいます。）

## 地 区 だ よ り

## 県 北 地 区

「県北地区協議会 夏季勉強会」開催

令和7年7月10日（木）19：00より、「県北地区協議会 夏季勉強会」がオンライン

にて開催されました。今回の勉強会ではメーカー様のご協力により4月に行われたITEMでの最新技術を中心にご講演していただきました。

最初にCT, MRI部門として、シーメンス

ヘルスケア、富士フィルムメディカル、フィリップス・ジャパン、GEヘルスケア・ジャパンの4社から、AI・ディープラーニング画像再構成による高速化、高精細化、体動補正など、それぞれメーカーの特徴や最新情報を提供していただきました。

次にワークステーション部門として、キャノンメディカルシステムズ、アミン株式会社の2社から制度の高い高速自動処理や様々な解析技術を紹介していただきました。

## 県 南 地 区

令和7年7月26日、「令和7年度 県南地区サマーセミナー」が星総合病院にて開催されました。

メーカー話題提供のセッションでは、富士フィルムメディカル株式会社からはCT・MRI・透視付き一般撮影システム、キャノンメディカルシステムズ株式会社からはワークステーションについてITEM2025トピックスとして講演がありました。各社の製品ともに魅力的な機能を備えており、装置更新を検討中の施設にとって非常に有益な情報となりました。

若手スタッフ発表のセッションでは、星総合病院 佐藤和香葉さん、総合南東北病院 東海林 寿紀さん、太田西ノ内病院 阿部 萌々佳さんの3名の新人技師の方から学生時代に取り組んだ研究内容についてご発表をいただきました。いずれの発表も学生の研究とは思えないほど完成度が高く、今後の活躍が大いに期待できる内容でした。

どのメーカーも素晴らしいものばかりでとても興味深い内容でした。今後の装置新規購入や更新の際にとっても参考になったのではないのでしょうか。

平日の19時より勉強会が開催され、ほとんどの方が勤務後の参加であったと思いますが、それにも関わらず約50名と多くの参加がありました。(阿部)

STAT画像報告についてのセッションでは、総合南東北病院から「未導入施設の現状」、太田西ノ内病院から「導入を始める施設の現状」と題してご発表がありました。STAT画像報告の導入にあたっての課題や運用開始後の実情について共有され、導入を検討している施設にとって大変参考になる内容でした。

今後も多くの診療放射線技師の方に参加していただけるよう、日々の業務に活かせるような内容を検討していきたいと思えます。宜しくお願い致します。

(増子)



## 会 津 地 区

### 第1回会津地区協議会委員会開催

7月29日に第1回会津地区協議会委員会が竹田総合病院にて開催されました。

令和7年度より新たな役員に変わり、地区協議会委員長の井上氏をはじめ出席者全員で自己紹介が行われました。

その後、県理事会報告、県委員会報告、

令和7年度事業についての話し合いと報告を行いました。

今年度の会津若松市健康まつりは、11月2日（日）の開催予定です。また、第2回会津画像研究会は秋頃を予定しており、交歓会も同時開催する予定です。その他、会津MRI研究会の開催、来年5月30日の県定時総会（会津開催予定）についても報告がありました。（小澤）

## 浜 通 地 区

### 「令和7年度 浜通地区協議会 学術大会・夏季研修会」開催

令和7年8月30日（土）にいわき市医療センターにて開催されました。参加人数は、会員48名、非会員1名、メーカー2名と沢山の方にご参加いただきました。

今回の夏季研修会では、各施設から計6演題の学術発表があり、日頃の業務における取り組みや課題、工夫について多くの学びを得ることができました。他施設の取り組みを知ることで、自身の業務を見直す良い機会となりました。

また、特別講演では、福島県立医科大学の末永博紀先生より「画像診断が診療にもたらす役割」についてご講演いただきました。現役の放射線科医師による読影の考え

方や、実際にNGとされる画像例などを交えたお話は非常に実践的で、大変参考になりました。

診療の質を高めるためには、検査目的に即した適切な画像提供が不可欠であり、そのためには撮影時点での私たち診療放射線技師の意識が重要であることを改めて実感しました。今後も、より質の高い画像提供を目指し、日々の業務に活かしていきたいと思います。（白土）



## 編 集 後 記

まだまだ暑い日が続いていますが、この暑さはいつまで続くのでしょうか？ 浜風が吹くいわきでもこの暑さですから、県内各地の方々は暑さに参ってしまっている所ではないでしょうか？ 熱中症のニュースも毎日のように耳にします。自己管理をしっかり行い体調を崩さぬよう心掛けていきたいと思っております。

（清野）